

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより

逢いてエ

雑報 繼文

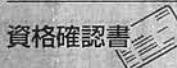
No. 710

2025年 8月1日

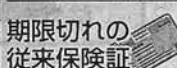
も・く・じ

• 最高裁 勝利判決の告知せ	2
• 今後の米需給	4
• ロシア偽情報と日本の選挙	7
• 「緋の河」「孤生葉の城」	8
• お便りから	12
• 種の保存法改正に向けて①	16
• 企業のエシカル通信簿	17
• 正士さんを送る	18
• 『続・日本軍兵士』(中)	20
• 関電 原発新設の方針	24
• 板室温泉 幸湯 ⑤	25
• け・い・じ・ば・ん	26

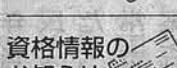
マイナ保険証への移行に伴う弥縫策



マイナ保険証
を持たない人 → 75歳以上は
全員交付

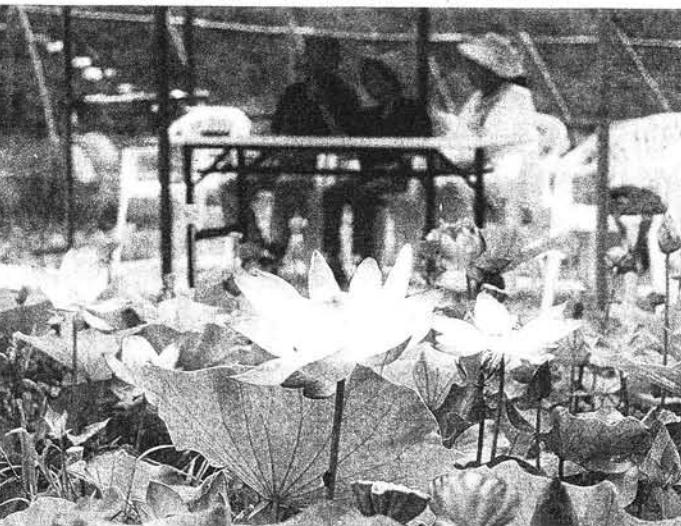


保険適用
不可 → 可
※2026年
3月まで



マイナ保険証
とセットでな
ければ不可 → 単体で可
※2026年
3月まで

国保加入者



8月23日「牛日新聞」

竹中さん、ス米さんが中心となり、地域の人々とつくりあがたバス田が、中日新聞で紹介されました。熊谷道子さん宅の新聞立、寄屋千づるさんへ送って下さいました。

メール配信をご希望の方は、

<suzukikosei.san@gmail.com>へ。

三宅伊都子さんが

応対してくださいます。

↑
題字 故佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)
力ツト 故泉ゆきをさん (にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

*この号の切手はライ・花

1/30 東京新聞

正士さんを送る

7月21日(月)、康江、原田、山崎さんと4名、天竜線「遠州森」駅で久米さんに迎えられ、いったん久米さん宅へ。

着替えをし、大石さんの車に原田さんと乗せてもらい、2台で天竜二俣の斎場へ。大勢の人が集まっていた。焼香が始まっていた。屋上美智子さん、水窪の皆20名。 (男性は省略) 静岡の人ごぼくが知る人はほとんど参加していた。顔が合わなかつたのは、水島加寿代、伊藤英雄、青山さんくらい。

焼香し、柩の中の正士さんと対面。1ヶ月前に見舞った時とは見違えるほど頬が蒼白になっていた。口から食べられなくなった後は点滴を拒んだという何日かが、すべてを燃やしきくしたのだろう。信念を持げない生き方を貫いた正士さんらしい潔い姿だった。

啓史さん、めぐちゃんなど親族の方に挨拶。といわけめぐちゃんは、ホスピスに近く別の病院に看護師として勤めているだけに、足繁く見舞い、介護したことだろう。正士さんも、どれほどじ強く嬉しかったことか。セ紡工の教室で遅れた若林さんも到着。

駐車場が限られていたこともあり、長居はせず、久米さん康江さん、原田さん、山崎さんと5名、山崎さんが予約してくれた近くの尾張屋旅館でささやかな偲ぶ会。

ここはひと頃、ACAP(消費者関連専門家会議)の「環境」グループ10名ほどが、正士さんの山林で作業をした際、宿舎についていた。毎年、一夜、正士さん深澤明男さんにはごくが懇親会に参加した。その時、心臓の悪い女性が酸素ボンベを引きずりながら給仕してくれたが、この夜も一人、ボンベは別のところに置いて世話をしてくれた。

女将の話では、この宿、来年で閉じるという。赤字続きで、やっと買手が現われ、からは下宿になるといつ。

ここ天竜二俣は、天竜川を利用した木桟の集散地。昔はさぞ賑わったことだろう。建物そのものは、木桟の町に似合はず、柱も間伐材のような節の残る三サ角だが、ところどころにオヤと思わせる部分が残る。ぼくが気に入ったのは、風呂場のタイルだ。

食事が終ると、康江さんは久米さん宅へ。男3名、ここに泊まる。

7月22日(火)、晴。ゆっくり宿を出て、天竜二俣駅まで送ってもらう。いま20歳という女将。東京・駒込の親類を訪ねた話してくれた。以前、米屋をしていたそうで、米価が高騰した最近、米の「ノ合買い(売り)」が始まつたという。そのための包装までできただようだ。

駅で手を振って別れる。「尾張屋しこれど終りや」

天沢線の車内で運転士に車輪の長さを尋ねた。往きの若い運転士は「22~23mかな」という。そんなことないって、いつうの在来線は20m、新幹線が25mだから、もっと短いはずだ。帰りの年輩の運転士は、即座に「18.5m」と答えた。奥部で山仕事の記事の中で、高所作業車の到達点は、天沢線の車輪と同じくらいではないかと書いたが、正しくは18.5mだった。



その後知ったが、この日の朝、原江さんと水窓の4名がバス田見物をしたそうだ。前日、久米さん宅へ向かう途中に見たバス田さんは、きれいな花がいくつも咲いていたっけ。ケンさんと久米さんの手で屋根付きの見物席が用意されていた。(表紙を見てください。奥の人影は、原江久米さん?さん)

また、久米さんと原江さんは、告別式にも参加したそうだ。菅原觀一さんと会われたとも。

久米さん、猫の手の供花の世話などいろいろお世ゆになりました。

届いたメールから

◇ 正士さんの告別式を疲れさせました。私も皆さんと同じ場所でお別れしたかったです。正士さんを偲ぶ機会がありましたら、今度はぜひ参加させていただきたいと思います。 三宅伊都子さん